



# 棚田ライタス

全国棚田(千枚田)連絡協議会

第67号 2014.8.5  
(年2回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるきやらネットワーク

〒184-0004 東京都小金井市本町6-5-3チ-ム石塚内

TEL:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・祝! 全国棚田(千枚田)連絡協議会20年目

三重県熊野市丸山千枚田の「田あぐり」行事。平成25年のように。昭和28年まで丸山地区で行われていたものを  
平成16年に復活させた



高知県梼原町神在居の千枚田。日本初の千枚田オーナー制度開始(平成4年)の神在居では現在、移住したオーナーの指導で新たなオーナーが田植えをしている



# 特集

# 祝！全国棚田（千枚田）連絡協議会20年目

三重県  
熊野市  
(旧紀和町)

## 荒廃した千枚田を 1340枚に復田

～丸山千枚田保全の20年～

熊野市地域振興課 地域振興係 吉田健二



1960 (昭和35) 年の丸山千枚田



1992 (平成4) 年の丸山千枚田



2013 (平成25) 年の丸山千枚田

荒廃していた丸山千枚田の当時の写真を見る度に、現在、目ににする景色は、大きな驚きであり、復活に携わった人たちの血と汗と涙の結晶であるものとただただ感謝するばかりです。そして、改めてこの景色を守つていくぞという使命感を強くもつ次第です。

かつては、2240枚あったと記録される田んぼも、昭和50年代には530枚まで減少しました。後継者不足、過疎・高齢化によりかつての面影を失くし

ていく中、『先祖から受け継いだ大切な棚田を自分達の代で無くしたくはない！復元し、後世に残し伝えよう』という地元住民の熱意と「丸山千枚田の復元を地域活性化の起爆剤としたい」という行政の想いが重なり、平成5年から地元住民と町とが一体となつた千枚田復活が始まりました。

平成6年には全国初となる千枚田条例を制定しました。この条例は、『先人の英知と偉業を偲び称えるとともに千枚田に親しみ、愛し、保護していく』ことを高らかに宣言した熱い想いの象徴といえます。

千枚田まで復活した丸山千枚田。次の課題は、いかに保存し、後世に残していくかということでした。そこで、知恵を出し合つて産み出したのが「棚田オーナー制度」や「丸山千枚田を守る会」です。この制度により、都市住民や県内外の企業の方々に、1年間の農業体験や地元住民との交流などを通じて、丸山千枚田の魅力とその保存の大切さを知つていただくことができました。

千枚田保存への想いは、更なる力を引き出していました。かつて丸山地区で行われていた伝統行事の復活にも成功しました。昭和28年まで行われていた「虫おくり」行事では、1340本の松明が揺らめく中を提灯や太鼓、鐘を持って歌いながら畦道を行列が練り歩くという幻想的

な光景を目の当たりにすることができます（表紙写真）。

また、昭和25年まで行われていた「大年まつり」は、節分の日に五穀豊穣と1年間の農作業の無事を祈願する行事で、「プロジェクト未来遺産」に登録されたことを記念して復活させました。

丸山千枚田を守る熱意は、大人だけのものではありません。地元保育所園児や小・中学生も毎年行事に参加し、経験豊富な子供たちがオーナーへの指導を行うなど多くの人たちとの交流を深めています。また、小学生は、保存会員から千枚田の歴史などを学び貴重な稲作文化を引き継いでいます。

このように、丸山千枚田の保存にかける想いは、多くの人々に強く、熱く浸透してきました。そして、その「想い」が形となつて表れているのが、今の美しい丸山千枚田です。訪れる人の心を捉え、感動を与え、懐かしい思いにさせるのもみんなの想いが詰まっているからこそです。私たちは、先人の熱い想いを引き継ぎ、いつまでも守つていくことを約束し、最後にキャッチフレーズを紹介させていただきます。

『皆で残そう！10年、100年、千枚田』

- 1：白米千枚田の田植え  
2：太陽光エネルギーのみで発光するLEDライトによる「あぜのきらめき」  
3：安城東高等学校による草刈り



## 世界農業遺産として世界の白米千枚田へ

石川県輪島市

輪島市交流政策部観光課長 坂下照彦

現在、白米千枚田は季節を問わず大勢の観光客で賑わい、輪島朝市とともに本市の大好きな観光拠点になっています。しかし、この国の名勝に指定されている1004枚の美しい棚田景観を保つため、これまでに様々な先輩方の工夫や苦労、そして助つ人の登場がありました。

昭和40年代後半から50年代にかけては、減反政策等の影響で耕作放棄地が目立っていたところ、景観復活に向け愛知県立安城東高等学校が修学旅行で、昭和57年から平成3年まで10年間、延べ約4500名の生徒が草刈作業をしました。

当時その様子が「草刈十字軍」と呼ばれ市民の心に深い印象を残し、また棚田の窮状が全国に報道されました。

平成4年から本格的な耕作維持対策として白米千枚田の耕作ボランティアを立ち上げ、年々参加者が増えて、平成13年には国の名勝に指定されました。平成18年、当時の小泉純一郎総理大臣の「絶景だよ、絶景」発言が大きくマスコミに報道され、白米千枚田は全国的に著名な棚田になりました。

一方で年々高齢化により耕作を断念する農家が増える中、平成18年に地域の中高年を中心にして白米千枚田愛耕会が組織されて耕作作業が安定化し、翌19年には白米千枚田オーナー制度が発足しました。

足して年々会員数が増えています。そして平成23年に世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」のシンボル的存在になります。

耕作以外のイベントでは、稲刈が終了した秋から冬にかけ、稲に太陽光エネルギーのみで発光するLEDライトによる「あぜのきらめき」を順次開催し、翌24年にギネス世界記録に認定され大きな話題になるなど、これらのイベントは本市の課題である冬季間の観光客誘致に大いに成果を發揮しています。

ハード面では昨年、千枚田ボケットパークとレストハウスを再整備しました。本年5月の田植えには500名の方々が参加するほか、新しく北陸農政局管内の5大学の学生たちの支援も得られました。また伝統的農法「水苗代」を約60年ぶりに復活させ、日本農業の聖地化を目指す事業も進めています。

現在、白米町の耕作農家は1軒だけになりましたが、白米千枚田の素晴らしい景観を後世に残したい熱い想いの方々のご支援とご協力により、自然との調和を図りながら耕作を維持し、地域経済の活性化にも大きく貢献しています。

20年の歩み

全国棚田(千枚田)連絡協議会

20年

の歩み

20年

の歩み

1992(平成4年) 高知県梼原町で千枚田オーナー制度スタート  
1993(平成5年) 農林水産省「中山間地域総合整備事業」「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」等創設  
三重県紀和町(現熊野市)丸山千枚田保存会発足

1994(平成6年) 全国棚田連絡協議会準備会発足(全国を旅する劇ふるさときらばんが荒れていく棚田をどうにかしたいと全国棚田サミット)を提唱し、全国から16市町村が集まつた

三重県紀和町(現熊野市)「丸山千枚田条例」を制定

1995(平成7年) 全国棚田(千枚田)連絡協議会設立

第1回全国棚田(千枚田)サミット 高知県梼原町で開催「テーマ・棚田のきのう過去きょう(現在あしたの明日)」

全国棚田フォトコンテスト開催翌年写真集「棚田」として刊行

棚田支援市民ネットワーク(現NPO法人棚田ネットワーク代表・中島峰広)が発足  
1996(平成8年) 第2回全国棚田(千枚田)サミット開催 佐賀県西有田町(現有田町)で開催「テーマ・棚田・未来を耕すく都市との共生の中で」  
1997(平成9年) 農林水産省「ふるさと水と土ふれあい事業」、「特定農地貸付推進事業」創設  
農林水産省 棚田保全検討調査会設置(5年間)  
第3回全国棚田(千枚田)サミット 長野県更埴市(現千曲市)で開催「テーマ・棚田いま時代と共に」国民理解を求めて「全国棚田連絡協議会」では棚田保全に対する支援実現にかかる要請書提出のための署名運動で5万1千人分の署名を集め、農林水産省等へ提出  
1998(平成10年) 農林水産省「棚田地域緊急保全対策事業」「棚田地域水と土保全基盤事業」(3か年)  
第4回全国棚田(千枚田)サミット 新潟県安塙町(現上越市)で開催「テーマ・棚田の私の橋渡し」  
棚田ワーキングブック「棚田はエライ」(石井里津子編著発行)  
1999(平成11年) 農林水産省「日本の棚田百選」認定(134カ所認定)



写真左は晴海中学校（東京）の田植え  
写真下は新たな耕作者「名勝姨捨棚田俱楽部」

姨捨の棚田は、長野県北部の千曲市(平成15年合併により更埴市から千曲市となる)にある、三峰山の山麓斜面(標高約460m)に形成された約40ha、1500枚の棚田です。

ちょうど20年前の平成6年で、県職員6名による「田毎の月棚田保存同好会」のみなさんです。当時は、姨捨の棚田一帯での圃場整備が終わり、耕作条件の悪い急傾斜地の棚田は、耕作放棄され荒廃した棚田が見られた頃です。

長野県  
千曲市  
(旧更埴市)

# 国の名勝、 重要文化的景観に。 「姨捨の棚田」 保全20年

現在、棚田景観の保全を目的に農道や水路などの耕作条件の改善を図る取り組みが文化庁の指導で行われていますが、高齢化はオーナー支援組織の名月会でも課題となるようになり、棚田耕作の担い手不足はさらに大きな課題となっています。

一方で、農業体験を通して農業や景観保全を学ぶ教育プログラムや、担い手不足の農家に代わって景観保全等を目的とした団体による新たな耕作者が、耕作を始める等の取り組みも行わ

現在、棚田景観の保全を目的に農道や水路などの耕作条件の改善を図る取り組みが文化庁の指導で行われていますが、高齢化はオーナー支援組織の名月会でも課題となるようになり、棚田耕作の担い手不足はさらに大きな課題となっています。

一方で、農業体験を通して農業や景観保全を学ぶ教育プログラムや、担い手不足の農家に代わって景観保全等を目的とした団体による新たな耕作者が、耕作を始める等の取り組みも行わ

ふるさと水と土保全モニル事業”により姪石地区の荒廃田（約3ha）を復田し、平成8年に「更埴市棚田保全推進会議」を立ち上げ、棚田貸します制度により、都市住民の力を借りて棚田の耕作をはじめました。棚田オーナーの支援組織として地元農家の有志から成る「名月会」も発足し、オーナー田の維持管理

されました。平成18年には、石井進記念棚田学会賞を3団体でいただきました。さらに、平成22年2月には、名勝指定地の棚田を含めた約64・3haが重要文化的景観「姨捨の棚田」として選定され、20年前にはだれ一人歩くこともなくかつた畦道を、棚田散策の人たちの姿が見られるようになります。

をお願いしてきました。  
平成9年10月には、更埴市において「第3回全国棚田(千枚田)サミット」が開催され、姨捨の棚田が広く紹介されました。平成11年5月に、名勝「姨捨(田毎の月)」として姨捨の棚田が、わが国で初めて文化財指定され、7月には農林水産省所管の「日本棚田百選」の一つとして認定

大山千枚田保存会がNPO法人として活動開始

2004年(平成16年) 第10回全国棚田(千枚田サミット) 豊島県相知町 現唐津市で開催 テーマ:「サミット10年 日本の農と食」を見直そう! 棚田からの提案

2005年(平成17年) 農林水産省 中山間地域等直接支払制度2期~平成21年度文化庁 文化的景観創設

第11回全国棚田(千枚田サミット) 愛知県鳳来町(現新城市)で開催 テーマ:「緑と水と心のオアシス」

2006年(平成18年) 第12回全国棚田(千枚田サミット) 宮崎県日南市で開催 テーマ:「棚田・未來への継承・人の絆が棚田を創る」 公式テーマソング「棚田へ行くう!」が発表

2002(平成14)年 第8回全國棚田(千枚  
田)サミット 千葉県鴨川市で開催「テ  
マ・棚田と都市・保全と共生」  
栃木県残したい柄木の棚田を選定  
2003年成15年 第9回全国棚田(千枚  
田)サミット 岐阜県恵那市で開催「テ  
マ・棚田とともに生きるふるさと」整備

2001(平成13)年 農林水産省「棚田地域等保全整備事業」(3か年)  
文化庁 指定 石川県輪島市白米千枚田 「名勝」  
第7回全国棚田「千枚田」サミット 石川  
県輪島市で開催 テーマ・「水と心のダムサ  
イト」

地域等直接支払制度」開始(第1期)  
成16年度

菅教授  
静岡県で「静岡県棚田等十選」が認定  
福岡県星野村(須八市)「広内・上原地区  
棚田保護条例」制定  
日本初棚田の専門研究書『日本の棚田』中  
島峰広著 発行  
2000年(平成12年) 農林水産省 「中山間

文化庁 長野県平川市妹坂棚田「名勝」指定  
全国棚田「千枚田」連絡協議会主催 棚田バ  
ノラマ体験展 東京日本橋三越で13日間開  
催。約7万3千人を動員。  
第5回全国棚田「千枚田」サミット 三重  
県紀和町・現熊野市で開催「テーマ・未来  
につなげ水のヒラミツド」人と地域の「元  
氣おこし」  
棚田学会発足(会長・石井進) / 東京大学名

高知県梼原町には、司馬遼太郎さんに「万里の長城も人類の遺産だけれど、梼原の千枚田も大遺産やな」と言わせた棚田があります。その棚田は、いつしか「千枚田」と呼ばれるようになり、その集落を「神在居」と呼んでおります。

その千枚田を活かすために、神在居の11世帯25人が「千枚田ふるさと会」を設立し、平成4年度に日本で最初の「千枚田オーナー」制度を発足させました。多くの募集の中、最初は16組63人の方々と交流が始まりました。その交流は交流を招き寄せ、その輪を広げるなかで、平成7年の「第1回全国棚田(千枚田サミット」の開催へとつながりました。坂本龍馬をはじめ多くの先人が日本の夜明けを夢見て駆け抜けた梼原の地に、全国142市町村等から述べ1171人が集い、地域で生活する思いを、明日の棚田を語り合いました。

さらに、そのネットワークを広げるために、全国棚田(千枚田連絡協議会を発足させ、活発な活動が始まりました。このオーナー制度や活動が棚田を保全する基金の創設や直接所得補償へと国を動かすきっかけになつたと思っています。

私も、その当時は、役場職員であり事務局として活動を始めましたが、そのころは、日本の農業は機械の大型化、近代化を進めておりましたので、最初は様々な方が「棚田を守る」サミット開催など、経済効率は悪



町立の小中一貫校、梼原学園の子どもたちが地域から田植えの指導を受ける

## 第1回全国棚田(千枚田)サミット開催地

高知県梼原町長  
矢野富夫



梼原高校生もオーナーに

くこれらの農業にならないと話をあまり聞いていただけない状況からのスタートでした。また、初めてのサミットであり、内容はもとより宿泊、移動手段、交流会など手探り状態で物事を進めながら不安の中で開催日を迎えたところであります。しかし、私にとりまして同じ思いを抱く方々との交流は、棚田を合言葉に日本人の「ころ」を糸の強さを改めて感じたサミットであり、多くのことを学ばせていただきました。今は、その棚田を守る輪が全国に大きく広がっておりますことに喜びと協議会の皆様に感謝をいたしております。

過日、サミット以後ご指導いただいております中島峰広先生（早稲田大学名誉教授）と高橋久代さん（チーム石塚新生ふるきやら）と東京でお酒を酌み交わし、過ぎし日のしわを数えながら「第1回全国棚田サミット」から20年、当時のことを振り返り、改めてサミット当時の関係者の皆様一人ひとりに「ありがとうございました」と心からお札を申し上げます。

今も、神在居の千枚田では、オーナーと移住者等地域の方々が笑顔で農作業をしています。今年で通算507組、2616枚田を守る」と語る梼原人の逞しさに感謝しながら今年も豊作を願っています。

の提言

2008(平成20年) 文化庁 重要文化的景観に高知県唐津市・蕨野の棚田、熊本県山都町・通潤用水と白糸台地の棚田景観を選定
第14回全国棚田(千枚田)サミット 長崎県長崎市・雲仙市で開催「テーマ・みんなで語ろう棚田の未来」
2009(平成21年) 文化庁 重要文化的景観に高知県唐津市「四十川流域の文化的景観」上流域の山村と棚田、高知県津野町「四十川流域の文化的景観」源流域の山村平成24年追加で選定
第15回全国棚田(千枚田)サミット 新潟県十日町市で開催「テーマ・未来へつなげ美しい郷土を」棚田からのメッセージ」
2010(平成22年) 農林水産省・中山間地域等直接支払制度3期(平成26年度)文化庁 重要な文化的景観に長野県千曲市「姨捨の棚田」、徳島県上勝町「樺原の棚田」及び農村景観を選定
2011(平成23年) 世界農業遺産(国連食糧農業機関認定)に石川県能登・能登の里山里海及び新潟県佐渡市「トキと共に生する佐渡の里山」が認定
2012(平成24年) 世界農業遺産に静岡県掛川地域・静岡の茶草場が認定
第4回アーバンエコ・未来遺産に三重県熊野市・みんなの手で守り未来に伝える!日本原風景「丸山千枚田」選定
2013(平成25年) 文化庁 重要文化的景観に和歌山県有田川町「蘭島及び三田、清水の農山村景観」富島県日南市「酒谷の坂元棚田及び農山村景観」を選定
第19回全国棚田(千枚田)サミット 和歌山县有田川町で開催「テーマ・人とまち、棚田とともに未来へ伝えよう!まもる心うけ継ぐ!豊かな恵み」
2014(平成26年) 文化庁 重要文化的景観に島根県奥出雲町・奥出雲たら鉄製及び棚田の文化的景観を選定
第20回全国棚田(千枚田)サミット 山形県上山市で開催予定「テーマ・未来へつなぐ実りの大地」





佐賀県  
有田町  
(旧西有田町)  
岳

上写真は平成16年、オーナーさんとの餅つき（右が池田さん）  
左写真は、平成12年、九州大学の留学生たちの田植え

## 棚田で20年が経って思うこと

佐賀県有田町 岳信太郎棚田会事務局 池田勝幸

今、棚田の田植えが済んで田畠

ることは早くて短かった  
約20年前に、仲間会(岳心会)  
の一人が地元開催の棚田サミット  
である意見を正々堂々と言つた  
と聞き、驚いたことを覚えて

きの意見は、相手で  
いた米は、高く売ってもヨカ  
そう言って、度肝を抜かれたこ  
とを今でも思い出します。

の方は年々と参加者が増加して、地元PRも増えてきています。私自身も40歳代前半だったのが、50歳代後半の年齢になり、20年の歳月はアツという間の時間であり、貴重な体験だつたと思っていますが、今後は貴重な体験を次世代の子どもたちや農業後継者等に伝えていくことも必要だと感じています。

その意見は、記事になり「ラ・イステラス」にも載り、岳の米は平地でできるものより手間暇をかけて育てるので美味しく育つのだと言つて、会場に来ていて農家・ほかの人たちから一斉に拍手が起きたと記事には載っています。

の方は年々と参加者が増加して地元PRも増えてきています。私自身も40歳代前半だったのが、50歳代後半の年齢になり、20年の歳月はアツという間の時間であり、貴重な体験だつたと思つていますが、今後は貴重な体験を次世代の子どもたちや農業後継者等に伝えていくことも必要だと感じています。

また、中山間地域等直接支払制度での農業不利地での援助や、生産向上の助成にも、今後とも力を入れてもらい、高齢の農業生産者への支援対策を充実してもらいうように声を大にして申し上げたいと思つています。

農家に生まれて、小さいとき

棚田、地  
域づくり  
と棚田、  
米流通と  
棚田米、  
環境教育  
と棚田、  
生物多様性と棚田保全、ボランティアと棚田、棚田と圃場整備、田舎暮らしの現実と課題、棚田景観の保全と活用、日本農業の再生と棚田の10部会が設けられ、棚田に関するあらゆる問題が取り上げられて熱心な議論が行われた。分科会を柱とするサミットは現在に至るまで踏襲されている。

このような社会における棚田に対する関心の盛り上がりを背景にして、2004年には超党派の国

その後、我々の岳の棚田に来てもらい、美味しいコメのできました。当初は、地元を中心にしていましたが、福岡や長崎（佐世保）などの参加者があり、体验型のオーナー制度は盛り上がりました。

は農業のために親たちは、農業以外で農機具用の資金を稼ぎ、余暇を使っての農業を営み、その後はコメの価値が下がり、生産意欲が下がり、減反(生産調整)と進み、農家の後継者不足を招く原因となっています。

今後は減反政策の廃止が決まり、農家経営は一層大変な時期

その後に九州大学の留学生を受け入れての体験農業（田植え草取り（稻刈り））を行い、知名度が上がり、地元のPRは充分に役立ちました。

となり、コメ農家や各種の生産兼業者がますます多くなりそうです。地方は過疎化が進み、荒廃地が多くなり、イノシシや妨害動物が増えて、田舎は荒れた

毎年のオーナーとの農業体験は個別型から一体型へと変化し、数名の参加家族と交流を深めていますが、九大の留学生

となり、コメ農家や各種の生産兼業者がますます多くなりそうです。地方は過疎化が進み、荒廃地が多くなり、イノシシや妨害動物が増えて、田舎は荒れた「減風景——ふるさと」となり、棚田は木が生え盛り森林化したふるさとが多くなると思います。

今後10年やその後の田舎での充実した暮らしをするには、農業が生き生きとした生活の基盤であり、楽しい暮らしを夢見えて生活ができることが重要さを考

えさせられます。これが今20年の歳月が流れて思うことです。  
各農家が、今後とも希望が持てる棚田でありたいと思います

## 平成11年に村が制定した

### 「棚田保護条例」

「旦那が亡くなつて11年。息子

と2人で1年作つたけど、もう

たいへんで。10年前に自分のと

ころの棚田も保存会でやつても

らうこととしたとです」

日本の棚田百選になつている

広内・上原（福岡県八女市・旧

星野村）の棚田の所有者、山口

スミ子さん(80)が保全の歩みを振

り返つて話す。

天へと続く階段のような棚田で、夫婦で働く姿がカメラに収められたりもした。平成7年に「美しい日本のむら景観コンテスト」で広内・上原の棚田が農林水産大臣賞を受賞し、多くの写真家たちが足を運ぶようになつた。

「保存会」＝広内・上原地区保存実行委員会の発足は、平成10年12月。当時の星野村役場の働きかけもあり、地区で立ち上げ、荒れつた棚田の保全管理がはじまつた。

そして平成11年、旧星野村は「広内・上原地区棚田保護条例」を制定。この条例が、市町村合併後も生き続ける。八女市は、町並み保存にも力を入れており、農村景観も重要な観光資源と位置づけ「棚田保全条例」を引き継いだ。

「保存会の活動も平成22年まで、作業は完全ボランティアです。年

3回の下草刈りに、石積み補修…。平成22年に八女市になってからは管理委託費ができるようになります。これは大きい。ボランティアではやつていけない。経費の面で助かつちります」

保存会発足から15年間、事務局長を務めてきた田中幸一郎さんが話す。

「星野村のときに条例を作つていたのが良かったんです。平成11年、広内・上原の棚田は日本

の棚田百選にも認定され、翌年には旧浮羽町と共同で全国棚田サミットの開催です。その年からもした。平成7年に「美しい日本のむら景観コンテスト」で広内・上原の棚田が農林水産大臣賞を受賞し、多くの写真家たちが足を運ぶようになつた。

「保存会」＝広内・上原地区保存実行委員会の発足は、平成10年12月。当時の星野村役場の働きかけもあり、地区で立ち上げ、荒れつた棚田の保全管理がはじまつた。

そして平成11年、旧星野村は「広内・上原地区棚田保護条例」を制定。この条例が、市町村合併後も生き続ける。八女市は、町並み保存にも力を入れており、農村景

観も重要な観光資源と位置づけ「棚田保全条例」を引き継いだ。

「保存会の活動も平成22年まで、作業は完全ボランティアです。年

3回の下草刈りに、石積み補修…。平成22年に八女市になってからは管理委託費ができるようになります。これは大きい。ボラン

ティアではやつていけない。経費の面で助かつちります」

保存会発足から15年間、事務局長を務めてきた田中幸一郎さん

が話す。

「星野村のときに条例を作つていたのが良かったんです。平成11年、広内・上原の棚田は日本

2年続けて耕作ができない。

「今年も見に来る人、あつてですね。田んぼ、植えんとですか？」と言わつしやるんです

スミ子さんが言う。対岸の展望所から一望すると石積みはほとんど壊れていない。ほかの地域でも先人が積み上げた石積みの崩壊は、わずかな箇所であつたという。だが、いざこも水路や水源の崩壊、農地への土砂流入がひどかつた。

一方で災害は、村に新たな風を吹かせた。

社会福祉協議会を通じ、大勢の災害ボランティアが村内にやつてきたのだ。そして、中でも星野村出身者の1人がUターンを決め、「NPOがんばりよるよ星野村」を結成。これが村の大きな力となつた。

災害ボランティアは現在、簡単な水路復旧や農作業の手伝いへと活動範囲を広げている。最初地元は茶畠に入つた土砂撤去の手伝いを「ボランティアに依頼されませんか」と声かけしても「ご飯も用意せなならんなど抵抗があつた。だがボランティアは手弁当で来てくれた。しかも、被害の大きさは個人で凌げるレベル

豪雨の時、137段、425枚（12・4ha）を誇る広内の棚田はまるで、滝のようだったという。ねばならないほどだった。

対岸の広内棚田へと向かう橋は流され、未だ川自体の復旧工事が終わっていない。山の上から引かれた水路は石が入つて壊れ、

下：鹿里の棚田。鹿里集落  
彼岸花祭りを続けている。最後の日はコンサートを行い、200～300人で賑わうという。10年ほど前から調査に入ったのがきっかけで熊本県立大学が常時訪れている。週末のホームステイや夏休みの間、星野村のキャンプ場でバイトする学生も



## 村中に石積みを抱える美しい村の

福岡県  
八女市  
(旧星野村)

取材・文：石井里津子



長さ300mある棚田を含む  
帯で農作業する人を見かけた。  
垂直に組まれた石積みの精巧さ  
には驚く。機械を入れての代播  
きだが、ぐんやりと方一つする  
等高線の曲線に見事に機械を沿  
わせ、代播きはゆっくりと進む  
(耕作者は元村会議員の山口和  
則さん、70代。手前の川は確  
石流でめちゃくちゃに。道路も  
崩壊)

広内・上原の展望所では毎週  
開催される。野菜や米、茶、手  
作りのまんじゅうなど加工品も  
並ぶ。災害後1年は休んだが、  
また賑わいが戻ってきた。

石積みの風景を村中に抱える稀有な村として

「災害によつて、村の中でボランティアが認知されるようになつたんです。これで地元の負担が減つきました」

保存会事務局長の田中幸一郎さんは言う。

「災害によって、地元の手を煩わさず公民館に宿泊し、作業に取り組んだ」という。

アイの人たちは、地元の手を煩わさず公民館に宿泊し、作業に取り組んだ」という。

水田耕作面積は平成25年度66ha。災害前の平成24年度は81haだった。主たる産業のお茶や、花木も20～30年前のような勢いはない。

それでも地域は挑戦する。棚田には今、「ニオイヒバ」が続々と植えられていた。これはお墓等に飾る切り枝である。農協出

所からは集落で植えた紫陽花の青が集落を彩っていた。

星野村の石積みの風景や美しい集落の中には、日常とは異なるもう一つの時間が流れている。この20年は、こうした時間の価値を見いだしてきたのではないだろうか。次の20年、どうすべきなのか、星野村の棚田はわたしたちに問い合わせている。

広内の棚田にもボランティアが訪れていた。

「5月のGWの3日間、ボランティアの人たちが約40～50人、草刈りもして、ひまわりばええてくれたんです。1年を通じて作業に入るそうで。秋はコスモスを植えるそうです」

スミ子さん(56)が教えてくれた。お茶栽培が盛んな星野村。

長山口正彦さん(56)が教えてくれた。お茶摘みシーズンで地元は作業には出られない。ボランティアの人たちは、地元の手を煩わさず公民館に宿泊し、作業に取り組んだ」という。

人の手作業によって長い時間復旧工事で塗り替えられていた。さらに近年、村内全域に竹林が増殖した印象もぬぐえない。人の手がもはや入らなくなつた場所も目についた。

星野川下流の地域には、ここ数年ほ場整備が入つた。低い石積みがなだらかに広がつた光景が、四角く整頓された機能美へと変わつていて。平成元年にほ場整備が村に入つて以来20年、希望地区はなかつたが、今少しずつ変貌を遂げつづある。

そして20年の歳月は、「景観」をより地元が意識する時代へと導いていた。村内でも美しい棚田集落の鹿里集落。平成21年から9月下旬に、彼岸花祭りを開催するなど、集落が一丸となり活性化に取り組み始めた。集落を一望できる場所に「天空の里鹿里」と看板を出し、手作りの展望所も設けている。その展望所からは集落で植えた紫陽花の青が集落を彩っていた。

「たくさん的人がこの景観を見に行く来られます。草ボウボウにしこくわけいかんし、維持管理はしとかんといかん」

「今、みなさんに協力をしてもらい、正直、以前と気持ちがぜんぜん違う。今ここは自分の土地であつて自分のものではないんですよ。だからですね、嫌なお袋が苦労したのを見とる。畦塗りも手でしようつたんです。今は、正直、以前と気持ちがぜんぜん違う。今ここは自分の土地であつて自分のものではないんですよ。だからですね、嫌なお袋が苦労したのを見とる。畦塗りも手でしようつたんです。今は、

「たくさん的人がこの景観を見に行く来られます。草ボウボウにしこくわけいかんし、維持管理はしとかんといかん」

と保存会会長、山口さんが言う。

「今は、みなさんに協力をしてもらい、正直、以前と気持ちがぜんぜん違う。今ここは自分の土地であつて自分のものではないんですよ。だからですね、嫌なお袋が苦労したのを見とる。畦塗りも手でしようつたんです。今は、

20年目に寄せて 特別寄稿

# 棚田おいで！

新生ふるきやら 脚本・演出家  
石塚克彦

1999年「棚田パノラマ体験展」のようす

棚田は、日本人の主食であるコメをつくるために日本の自然、傾斜地に等高線にそつて形づくりで作業を続けることによって守られてきた美しい景色である。

それはコメを必要とし、コメを愛し、田んぼを愛し、膨大な労働をそそぎ込み、四季を通じて来た美しさでもある。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田の保存運動を仕掛けたところ、棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

子供の頃、田植えというと家

1999年「棚田パノラマ体験展」のようす

棚田の保存運動を仕掛けたところ、棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田の保存運動を仕掛けたところ、棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田の保存運動を仕掛けたところ、棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田を日本中にアピールするため、日本橋の三越本店で棚田展を大がかりに開いた。そのとき、「日本人の原風景」とタイトルを打った。原風景とは心の中に想い起す風景の中で、最も原体験を思い起こさせる心象イメージのことである。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田は自然に寄り添った、日本人らしい生産のあり方がつくり出した型として、自然にしつくりとなじんで、日本人らしい農村風景として受け継がれてきた。

棚田は全員駆り出された。慣れない労働に腰が痛くなつても、倒れるまで許してもらえないかった。

人の手前、子供とはいえ田植え作業の途中で、いち抜けたはダメなのである。

そのかわり、田植えの終わつた後に田んぼを見る気分のよさは格別だった。植えたばかり一面の早苗は美しいばかりではなく、吹きすぎる初夏の風が、吹かれる稻の苗の気持ちになつてさわやかに感じるのである。

私の家の田んぼの近くに、畔塗りの名人と言われる人の田があつた。田植えの季節になると、集落の人全員が一度はそのクロ（畔）を観に、その田んぼを訪れた。そのクロの美しさは、いくら丁寧に時間をかけて真似しようと、私も棚田を見に行くときは、順々に掛流して、全部の棚田に水を満たしてゆくのである。

私も棚田を見に行くときは、順々に掛流して、全部の棚田に水を満たしてゆくのである。

水源がどうなつていて関心を払う。それは、棚田が立地する地形に興味を持つということである。

作物を育てるにはチツソ・リ

ンサン・カリと言われているが、日本の田んぼは春になるとレンゲソウの花で一面ピンクで美しかった。レンゲソウ（蓮華草）は、根に根粒バクテリアが共生し、空中窒素を土の中に固定するの

である。美しさも証があった。

バインが入れない棚田は、いまや最も生産効率のわるい生産現場もある。したがつて、農業をめざす若い人たちが喜んで継承する田んぼ・生産手段ではない。けれども棚田は教育手段の場と考えると、棚田には日本人の知恵が豊かに詰めこまれている。例えば田んぼの水利にしても、た後に田んぼを観る気分のよさは格別だった。植えたばかり一面の早苗は美しいばかりではなく、吹きすぎる初夏の風が、吹かれる稻の苗の気持ちになつてさわやかに感じるのである。

私の家の田んぼの近くに、畔塗りの名人と言われる人の田があつた。田植えの季節になると、集落の人全員が一度はそのクロ（畔）を観に、その田んぼを訪れた。そのクロの美しさは、いくら丁寧に時間をかけて真似しようと、私も棚田を見に行くときは、順々に掛流して、全部の棚田に水を満たしてゆくのである。

私も棚田を見に行くときは、順々に掛流して、全部の棚田に水を満たしてゆくのである。

水源がどうなつていて関心を払う。それは、棚田が立地する地形に興味を持つということである。

作物を育てるにはチツソ・リ

ンサン・カリと言われているが、日本の田んぼは春になるとレンゲソウの花で一面ピンクで美しかった。レンゲソウ（蓮華草）は、根に根粒バクテリアが共生し、空中窒素を土の中に固定するの

である。美しさも証があった。



# たら製鉄文化が生んだ棚田景観

# 島根県奥出雲町

平成26年3月、国の重要文化的

景観に島根県奥出雲町「たたら製鉄及び棚田の文化的景観」が選定された。世界で唯一、たたら製鉄が行われているところ——それが奥出雲町である。古くからこの辺り仁多郡一帯は、世界最大の砂鉄鉱山であったという。733年編纂の『出雲国風土記』に、この地の和鉄の良質さ、優れた製鉄技術について書かれてあるほどだ。

刃物だけでなく農具や生活用具を作るために欠かせないものだつた。良質の砂鉄が多く採れたこと、山林に囲まれ製鉄に必要な木炭が沢に供給できたことが、この地を和鉄の一大生産地帯へと押し上げた。

だが、明治中期になると洋鉄の輸入等に押されはじめ、大正末年、たら製鉄の炎は日本から消える。が、軍刀の材料である「玉鋼」を造るために昭和8年、復活。そして終戦を迎えると再び需要を失った。その後、昭和52年に(財)日本美術刀剣保存協会が力を注ぎ、奥出雲町で唯一復活し、現在は年3回、たらの炎が上がっている(国選定保存技術)。

では、たらと棚田。両者はどうからみあうのだろうか。

## 鉄穴流しの跡地が棚田に

6月、草も生い茂る最中、奥出雲町では何処も草刈りがびしやり

これに良質な砂鉄が含まれていま  
す。移植ゴテでも掘れるくらい柔  
らかい。ですから、打鍬(つるはし)  
のような道具 1本で山をどんどん  
切り崩して採掘していくたんです。  
昔の写真を見ても、30mぐらいの  
高さは優に削っているんですね」  
「鉄穴流し」とは、少なくとも数  
百年ものあいだ、この地で続けら  
れた独自の砂鉄採取方法の名称だ。  
まず、丘陵地(山)を鍬で切り崩す。  
そして、砂鉄が混じっている土を、  
山の水源から引いてきた水路(鉄  
穴横手)の中に落とし流す。水を  
利用し比重選鉱するのである。

これに良質な砂鉄が含まれていま  
す。移植ゴテでも掘れるくらい柔  
らかい。ですから、打鍬(つるはし)  
のような道具 1本で山をどんどん  
切り崩して採掘していくたんです。  
昔の写真を見ても、30mぐらいの  
高さは優に削っているんですね」  
「鉄穴流し」とは、少なくとも数  
百年ものあいだ、この地で続けら  
れた独自の砂鉄採取方法の名称だ。  
まず、丘陵地(山)を鍬で切り崩す。  
そして、砂鉄が混じっている土を、

山の水源から引いてきた水路(鉄穴横手)の中に落とし流す。水を利用し比重選鉱するのである。

人が一鍬一鍬、山を削る作業も数百年続ければ、丘陵地の山々は大規模に削られ、地形がまるで変わ



1：町の標高は約200～700m。標高約400mの鳥上地区、福頬集落（44戸）を望む。「丘陵地のかまほこ状のところを全部削っているんです」と教育委員会の高尾さん。ここは鉄穴流しの跡を利用した棚田一帯

2: ほ場整備がここは入っておらず、鉄穴残丘と昔のままの井手と曲線がわかる

3：鉄穴残丘が、至るところで見受けられる

とばかりに行き届き、農地すみず

今まで人の手が入っていた。驚くほど荒廃地がない。空に向かって開かれた棚田群の緑に紛れて、民家の石州瓦の紅色が映える。緩やかに広がる開放感あふれた棚田の連なりが牧歌的雰囲気を醸し出す。この開放的な広がりは、たたら製鉄の苦みが生み出したものだ。ただし、働く者の食糧確保のためには、山が拓かれ棚田が造られたわけはない。山と川の狭い谷に采

今まで人の手が入っていた。驚くほど荒廃地がない。空に向かって開かれた棚田群の緑に紛れて、民家の石州瓦の紅色が映える。緩やかに広がる開放感あふれた棚田の連なりが牧歌的雰囲気を醸し出す。

この開放的な広がりは、たたら製鉄の苗みが生み出したものだ。ただし、働く者の食糧確保のためには、山が拓かれ棚田が造られたわけではない。山を削り砂鉄を探り出した跡地を放置せずに、棚田に変えてきた結果である。町教育委員会社会教育課の高尾昭浩さんが言う。

「鉄穴流しの跡を棚田にしているんです。鉱山の跡地利用です。この一帯は風化花崗岩でできています。これに良質な砂鉄が含まれています。移植ゴミでも掘れるくらい柔らかい。ですから、打鍬(つるはし)のような道具1本で山をどんどん切り崩して採掘していくんです。昔の写真を見ても、30mぐらいの高さは優に削っているんですね」

「鉄穴流し」とは、少なくとも数百年ものあいだ、この地で続けられた独自の砂鉄採取方法の名称だ。まず、丘陵地(山)を鍬で切り崩す。そして、砂鉄が混じっている土を、山の水源から引いてきた水路(鉄穴横手)の中に落とし流す。水を利用し比重選鉱するのである。

人が一鍬一鍬、山を削る作業も数百年続ければ、丘陵地の山々は大規模に削られ、地形がまるで変わ

町内の水田の半分ほどを占めているのではないかといふ。現在、調査によつて旧横田町内の耕地約1500haのうち、3分の1にあたる約500haが、鉄穴流しを起源とする棚田と判断されている。地形分析や、「鉄穴」といった小字名が多くあり、地名からも棚田造成の背景を探ることができる。

そして 鉄穴流しの跡跡不用で  
あることが一目でわかるのが「鉄  
穴残丘」だ。町の棚田風景の中、  
突如ぱつこりと浮かぶ小さな島  
……、島のような小山。これが鉄  
穴残丘である。よく見ると、お墓  
があつたり、神社など鎮守の社だ  
つたりする。鉄穴流しは、もとも  
とあつたお墓や神社を壊すことな  
く、島のように残した。こうして  
独自の景観ができあがつた。

# 江戸後期の大区画棚田、 大原新田

4 鉄穴流して山を切り崩した跡が今も残る場所。水路は、鉄穴横手の姿形のまま  
かんがい用に。昭和4年まで農閑期に鉄穴流しが行われていたという

卷之三

6月、草も生い茂る最中、奥出雲町では何処も草刈りがびしやり

数百年続ければ、丘陵地の山々は大規模に削られ、地形がまるで変わ

鉄穴流しで拓かれた棚田群の中  
で、日本の棚田百選に選ばれてい

(\* 1) 刃金土とは、水を通しにくい土で、鋼土とも (\* 2) 山内とは、たたら場や労働者の住居が一体となった区域  
(\* 3) 大原鉛の操業は、絲原家文書によると1738年からの5年間と1773年からの17年間という。このあと、このたたら

ら場は操業を終え、新田開発がなされたと見られている。昭和に入って絲原家元屋敷が火災に遭い、文書が一部焼失し、新田開発を裏付ける資料はない



1 : 江戸末期に造られたままの姿を残す大原新田。大馬木高原地区。5年前に地元で展望台を整備し、そこからの眺め  
2 : 「ここは草刈りがたいへん」と吉川さん。「今後、遊歩道や東屋を造ったり、ここでホタル観察ツアーなどを開きたい」  
3 : 地区の小高い丘の上に絲原家の墓がずらりと並ぶ。絲原家は広島から1624年に訪れ、現在は移転したが16代目という。13代までがここに眠る

る棚田が1ヵ所ある。江戸末期に造られた「大原新田」である。4.9haで38田区。現在6人で耕作する。一棚田だ。だが、整備を入れたままの姿である。1枚の大きさ、横約100m、奥行き約15m、土坡の高さは高いものでは3mもある。町農業振興課課長舟木長さんは言う。

「こんなに高い法なのに、急な勾配でしよう。今の技術なら底辺部分はあと2mぐらい前に出さなきやならないですよ。作付面積を減らさないために、畦畔の中心部を石積みにし、その上に盛土をするといった強固な造成です。ため池の工法なんです」

1田区あたり10~20aという4角い棚田が、高い技術で江戸末期に造られていたのだ。町では昭和50年代以降、ほ場整備が進み、山際などを除きほぼ完了しているが、どの水田もかつては曲線で小さな区画だった。

大原新田は有力鉄師の一つ、絲原家のものだつた。たら製鉄で栄華を誇った絲原家。水田は100町歩以上所有していたといふ。新田背後の山に向こうにため池も造らせ、3kmほどの水路も掘削されている。絲原家には馬が120頭余いた記録もある。「手馬」と呼ばれる、炭や鉄を運搬する馬の貸し付け業も行っていた。財力や馬の存在が、おそらく当時の大区画平成21年に設立された「大原新

田保存管理委員会」会長で自治会長の吉川忠良さんは「砂鉄を探つたあとでも、田んぼにしているのが味噌。まつすぐな棚田は昔からここだけ」と語る。  
そして、手持ちの資料を見せてくれた。そこには明治22年の地籍図(大原田部分)が写されていた。耕地の小字名が細かく入っている。「鑪床」「鉛床」「鉄穴」「山内」(\*2)といつた地名が読み取れる。鑪床といふのは、たらら場(\*3)である。今でいう工場の跡だ。棚田から、当時の鉄師の隆盛ぶりが見て取れた。

### 棚田が育てる仁多米

こうした背景を持つ棚田で作られた仁多郡の米は、昔から「おいしい」と評判だつた。平成10年には町(奥出雲町となる合併前の旧仁多町と旧横田町)が100%出資し、奥出雲仁多米株式会社を設立。「昭和初期、戦前ですね、松江区の米屋に『仁多米あります』という宣伝文句が貼られていたそうです。大正生まれの、当時の仁多町長はこうした自分の経験から自信を持って仁多米のブランド化を進めたんです」

そう話すのは、奥出雲仁多米株式会社管理部長内田康也さんだ。仁多米のおいしさは、もともとの水や土、環境の良さだけではなく、和鉄産業で栄えたこの地には、古くから多くの牛馬がいた。これらの糞を堆肥として利用できたことが大きい。たらが閉鎖された

後も、人々は農耕牛馬や肥育牛の糞を長年にわたって田んぼに入れてきた。

この流れを汲み平成13年、町は「堆肥センター」を建設。巨大な施設で、地元和牛の糞や粗穀等を完熟堆肥にする。これが仁多米の高い食味を支える。

さらに仁多米株式会社では、減農薬、堆肥使用だけでなく、米を生糞のまま低温保存。出荷時に糊(送料込で1kg 800円程度)や、東京を中心にデパートでの販売など高級路線で進む。個人への直販を増やすべく、10億円近い売り上げにまで伸ばせることだった。教育委員会高尾さんは話す。

「重要文化的景観に選定されて、まずは地域住民の誇りにつなげたいですね。仁多米は、文化的価値がある棚田でできたお米ですから、今後はそこにもつなげていきたいです」

◎

たたらと棚田とともに歩んできた地域。気がつくと会う人会う人が自分が家の何代目であるかを語ることができた。大原新田の吉川さんは「4代目」だという。1代目は下の方の集落から大原地区へ上がってきた。

「初代は絲原家に働き手として呼ばれたんじやろう。ええ若いものがおるとかゆうてなあ」

代々、受け継いでいくことを重んじてきた地域。

「次の世代をどうするか、これか

き刺さつた。

農林課舟木さんの言葉が胸に突き刺さつた。

株式会社仁多堆肥センター(町100%出資)。年間6000トンの堆肥を作る。町では10a辺り1トンの堆肥施用を推奨している



地元の酒造会社では、大原新田産の酒米で「棚田五百石」を製造。きっと透き通った辛口の味

右: 奥出雲仁多米株式会社。仁多米はすべてコシヒカリで30kg1万円の買い取り。ブランド加算金として2500~3000円上乗せし。仁多米の収益を還元下: 奥出雲仁多米株式会社の内田康也さん。「ここは四季がはっきりしている。冬は雪が一晩で50~60cm積もり、2mもの根雪になる地域。これがミネラル豊富な伏流水に。この水をはじめ、昼夜の寒暖の差もおいしいお米を作ります」と話す





今年から美作高校とタイアップしてユネスコ協会連盟のESD PROJECTに参画。その田植え風景。2013年、上山の棚田活動は日本ユネスコ協会プロジェクト未来遺産に登録された

私たち、岡山県美作市（旧英田町）の上山集落（集落は集落です）は、ほぼ壊滅状態だったのですが、かつて水田100町歩8300枚があつたといわれ田の景観美を誇っていたところです。私たち棚田団がこの棚田の再生に着手したのが2007年8月でした。

見渡す限り山に戻りつつあつた棚田を見た時、「再生なんて無理！」と言葉を発したこと昨日のことのように思い出します。

TOPICS

# うえ やま 翻だ! 上山畠田回!!

～都会で仕事をしていたらありえないサプライズとともに～  
一般社団法人上山集楽 代表理事／NPO英田上山棚田団 理事 西口和雄

氏。大阪出身でセイネン勤務等を経て、林業を志し独立。協創レーベン(有限責任事業組合)2007年設立の立ち上げメンバー。その活動の一環として上に2007年、上山集落に移住

2013年11月8日、棚田サミット】



2007年の上山の棚田

早速、ヘリオーナーの加藤義美さんに相談し快諾をいただき  
ヘリ2台でロックフェラーへ去  
妻と昭恵夫人と美奈子さんに空  
から舞い降りてきて飛び立つ  
いっていただこう!! なアホな  
企画が馬鹿正直に水面下で調整  
されました。 なにせ世界の  
VIPが突然なんの前触れもなく  
サミット会場に空から乱入す  
る! ということで一同緊張の  
面持ちでその瞬間を待ちわびた  
のでした。

当初は、岡山の上山集楽に来て頂く予定だったのですが、ちょうどその日がサミットと重なり、いつのことサミットに来ていただこう！ ということになりました。車で移動するには時間がかかる……どうしたものか……。

それから6年後の2013年11月、和歌山県有田川町での企画国棚田サミットのような晴れ舞台にお呼び頂けるようになつて来たことは私たちにとって本当に嬉しいことでした。実は……あの棚田サミットの裏で、重要な目的が我々にはありました。

棚田団は、「アッキー」こと安倍昭恵総理夫人が名誉顧問になつてくださつておりまして、彼女とのご縁でセイラーズフォーザシージャパン日本責任者の井植美奈子さんのご紹介で、ロックフェラーゴ夫妻が我々に逢いに来てくれる！とのあります。ないシチュエーションをセッティングしていくのです！

## 英田上山棚田団を知る書籍

外にある数千エーカーあるオーナーがニックファームに訪れることができるかもしないビッグチャンスが来る日も近いわけで、これから日本の中山間地域が限界集落ではなく未来の可能性あふれるMERRY（笑い楽しむこと）といった意）な夢の集落になれるよう世界と連携しながら諒々たと棚田の再生をしていきたいと考えています。当然に日本の地域との連携を強固にし、Win-Winの関係を構築し人的交流をも活性させよりMERRYな地域創造の一助を担うことができれば幸せです。

おそらく都会で仕事をしてい  
たらアツキーにもお逢いしてい  
ていないし、まさかデイビッド  
ロックフェラーJr.に自分が直接  
プレゼンをさせていただけの機  
会などありえるわけもなく、美  
作市上山で荒れ果てた耕作放棄  
地の棚田の再生に人生をシフト  
したことから普通の人生ではあ  
りえないサプライズなことが  
日々起きているのです。

## 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 **全国棚田(千枚田)連絡協議会**

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局  
**有田川町役場 清水行政局 産業振興室内**  
〒643-0521 和歌山県有田郡有田川町清水387-1  
TEL:0737・52・1111(代)  
FAX:0737・25・9055(直)  
協議会HP: [www.yodogawa-machi.jp](http://www.yodogawa-machi.jp)

新しく会員になったみなさま  
＜個人正会員＞ 大崎 健夫(高知県)

編 集 後 記

今年度、全国棚田(千枚田)協議会も発足20年目を迎えます。この20年、各地での挑戦や闘いがあったからこそ、「棚田」という言葉が知られ、日本の美しい農村風景の代表として、棚田が注目されるようになりました。「棚田をキーワードに農山村の魅力や現状をわかりやすく広く伝える」というのが、「棚田ライステラス」の挑戦であったように思います。数々のご協力をありがとうございました。ライステラスも20年を節目に、年2回の発行となりました。年2回ではありますが、農山村の価値を足元から発信できる情報誌としての役割を大切に、編集してまいります。 石井里津子

# 第20回全国棚田(千枚田)サミットニュース 山形県上山市で開催します

開催地

かみのやま  
山形県上山市

当市は、県都山形市に接し秀峰蔵王の麓にある室町時代に開湯した東北屈指の歴史ある温泉都市で、まちの中心に復元した三層の上山城天守閣、目抜き通りの町屋造りの商家や古い土蔵は羽州街道の宿場の名残をとどめており、温泉町、城下町、宿場町の3つの顔を持つ市です。果樹王国山形の代表的な産地で、さくらんぼ、ぶどう、ラ・フランス、柿と四季を通して楽しめます。蔵王高原に立地するアスリートヴィレッジの日本陸連認定の高地トレーニングセンターは、箱根駅伝の優勝校やバレー・ボル・バスケットの実業団の強豪など、トップアスリートの合宿で大いに利用されています。

きてけらつしゃーい



雪化粧の蔵王連峰

田植え風景

## 平成26年10月23日(木)~24日(金)

### 未来へつなごう実りの大地

—棚田を基点とした  
地域の活性化に向けて—

#### 基調講演

講師:民俗研究家 地域づくりプロデューサー  
結城登美雄

#### 第1分科会

「棚田を守る人づくり、組織づくり」  
コーディネーター:茨城大学農学部教授  
福與徳文

#### 第2分科会

「農業を起点とした6次化、農商工連携による棚田地域の活性化」  
コーディネーター:株式会社 玄 代表取締役  
政所利子

#### 第3分科会

「多様な交流による棚田地域の活性化」  
コーディネーター:さんばみち総合研究所株式会社 調査研究部長  
沼田洋一郎

#### 第4分科会

「地域農業の継続を実現するための仕組みづくり」 コーディネーター:山形大学農学部教授  
小沢 亘

#### 首長会議

コーディネーター:棚田学会会長 東京農工大学名誉教授  
千賀裕太郎

#### 棚田保存会意見交換会

コーディネーター:早稲田大学名誉教授  
中島峰広

#### 開催プログラム

	時 間	内 容	会 場
10月23日(木)	10:00~11:00	全国棚田(千枚田)連絡協議会 総会	上山市体育文化センター
	12:00~14:10	オープニングセレモニー 第20回全国棚田(千枚田)サミット開会式 基調講演 結城登美雄氏(民俗研究家)	上山市体育文化センター
	14:30~17:30	棚田現地見学会	日本の棚田百選コース 小倉~蔵王温泉コース 蔵王高原坊平~小倉コース
	19:00~21:00	交歓交流会	日本の宿 「古窯」
10月24日(金)	9:00~10:30	分科会 第1分科会「棚田を守る人づくり、組織づくり」 第2分科会「農業を起点とした6次化、農商工連携による棚田地域の活性化」 第3分科会「多様な交流による棚田地域の活性化」 第4分科会「地域農業の継続を実現するための仕組みづくり」 首長会議 棚田保存会意見交換会	上山市体育文化センター 上山市役所 日本の宿 「古窯」
	11:00~11:30	事例発表 県立上山明新館高校 山辺町グループ農夫の会	上山市体育文化センター
	12:30~13:45	分科会の総括 第20回全国棚田(千枚田)サミット閉会式	上山市体育文化センター

#### 問い合わせ先

第20回全国棚田(千枚田)サミット上山市実行委員会事務局

上山市役所農林課 〒999-3192 山形県上山市河崎1-1-10

TEL023-672-1111(代表) FAX023-672-1112

## 3つの町営水力発電所

人口約1万5千人の島根県奥出雲町で、まもなく町営の水力発電所が3カ所稼働する。だが、3つの発電所とも建設は、昭和30年代。1952年に「農山漁村電気導入促進法」が成立し、中国地方では相次いで水力発電所が建設された。「営利を目的としない農林漁業団体」が融資対象だったため、農山村の農協や土地改良区が小水力発電に乗り出したのだ。無灯家屋の解消と地域振興への思いが地域を動かした時代だった。

そんななか1957年、三沢地区(旧仁多町内、以前の三沢村)の住民は立ち上がる。地区住民が出資し、農協が事業主体となり三沢小水力発電所を建設した。ちょうど県が急峻な阿井川に砂防ダムを築造し、その堰堤や落差を利用できることも大きかった。

1975年からは管理運営を三沢地区が引き受けた。委託料や売電料の一部を地元に還元し続け、その額、55年間で約2000万円。集会所等の電気代、文化活動や福祉振興協議会、農産加工所への助成、小学校の備品代などになった。

だが、50年以上の時が過ぎ、333戸あった三沢地区の世帯数も205戸(H26.6)に。高齢化も進み、発電所の老朽化も避けられない現実だった。だが、地元JAでは、施設の抜本的更新の経費を見込めなかった。

一方で「再生可能エネルギー固定価格買取制度」が2012年にはじまるなど、エネルギーに対する社会の意識は変化する。こうした流れを受け、地元との協議の結果、今年4月、三沢小水力発電所はJAから町に委譲されたのである。

今後は町が、管理運営し災害や過電流などのリスクも引き受ける。電気主任技術者は従来通り地元からの雇用だ。地区で積み立ててきた修繕費等は、町から委託される発電所周辺の環境整備の委託料とともに、地域振興金の存続にあてられることになった。

そしてもう一つ、町内を流れる大馬木川には仁多発電所(仁多地区)がある。こちらも1950年代に築造された砂防ダムを利用したものだ。仁多発電所は、地元農協が1960年から稼働させ、管理を町に委託してきた。施設の老朽化が進み、更新が検討されるなか、2012年4月、町へ委譲された。

さらに現在、2015年秋の稼働を目指し、3つめの町営水力発電所が阿井川で準備中である。阿井発電所だ。実は、1954年から土地改良区がかんがい用水で発電を行っていたが、1985年に閉鎖。これが2012年、県の調査で今後優良な水力発電が見込めるとして浮上してきた。農業用水による発電ゆえに農林水産省からの補助もあり、現在、水利権の獲得や調査が進行している。

この地のポテンシャルを生かした先人たちの努力が、時代の中で1本にまとまり、町に自然エネルギー事業という潮流をもたらしている。町の底流で古くて新しい力が流れ続けていた。

三沢小水力発電所、県造成の砂防ダムを利用。  
思った以上に阿井川のスケールは大きい

取材・文：石井里津子



仁多発電所は大馬木川の砂防ダムを利用していている。建屋まで長さ43.7mの水圧鉄管が伸びている。取水量は1.00m<sup>3</sup>/秒。最大出力185kWh。現在売電価格8円55銭(税込)/kWh



仁多発電所の建屋内部にて。仁多発電所を担当する電気主任技術者、堀江寿彦さん



沈砂池の水門を説明してくれる町環境政策課環境政策グループ赤名和弘さん



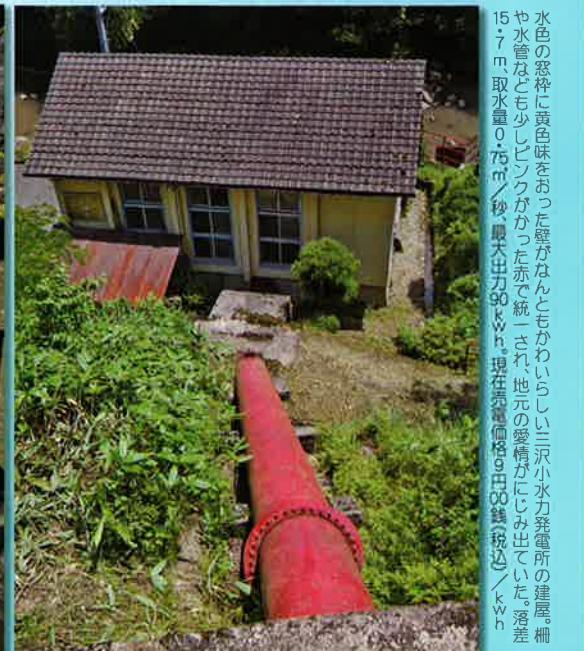
町内には三成ダム(斐伊川)からの落水による県営の水力発電所、三成発電所もある。落差は約59m。1953年開始。ちなみに三成ダムは日本初のアーチダム



三沢小水力発電所の建屋から取水口へと向かう道。地面の下に導水路が約200m埋まっている。途中巨岩を手彫りした隧道もある



三沢小水力発電所、導水路にゴミが詰まり取水量が落ちると水車は電気を使つて回り始めてしまうため、こまめに取り除く必要がある。写真は案内をしてくれた町環境政策課課長の杠(くわ)康彦さん



水色の怒濤に黄色味をおつた壁がなんどもかわいらしい三沢小水力発電所の建屋。や水管など少しピンクがかつた赤で統一され、地元の愛情がじみ出していた。落差15.7m 取水量0.75m<sup>3</sup>/秒 最大出力90kWh 現在売電価格9円00銭税込/kWh